

## 【認知症対応型共同生活介護用】

## 1. 評価報告概要表

作成日 平成21年 3月 15日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0591100078
法人名	社会福祉法人 北秋田市社会福祉協議会
事業所名	グループホームあいかわ
所在地	秋田県北秋田市新田目字大野5番地1 (電話)0186-78-5220
評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団
所在地	秋田市御所野下堤5丁目1番地の1
訪問調査日	平成 21年 3月 10日

## 【情報提供票より】(平成20年12月11日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 19年 3月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	10 人 常勤 8 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 5.7 人

## (2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1階建ての ~ 1階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円	
敷金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 1,200 円			

## (4) 利用者の概要(平成20年12月11日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.4 歳	最低	72 歳	最高	95 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	北秋田市国民健康保険合川診療所 厚生連北秋中央病院
---------	---------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域の自治会に加入し、地域行事への参加はもちろん、自治会を通して事業所側から地域へ積極的に働きかけ交流の場を設けている。又、年間を通したボランティアの受入れにも積極的で、週1日地域の団体による調理ボランティア、地元高校生(介護学科)の受入れと人材育成にも貢献し、地域に根ざした事業を展開している。利用者は同じ屋根の下で、併設の小規模多機能型居宅介護の利用者と日常的に交流し、職員は互いに連携しながら事業を進めている。又、職員の質の向上に向けた法人内の勉強会や交換研修などを行い、組織的な体制で職員を育成している。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 昨年度の改善課題として、個別の記録に関して介護計画に沿った記録と一連の流れが分かるような記録の工夫が求められていたが、このことに関して全職員が理解し、介護計画に対応した記録の作成に取り組んでいる。介護計画に沿った記録と、状態の変化に応じた見直しが随時行われている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今年度は全職員が自己評価に参加し、職員会議で具体的な改善策を検討するなど、評価を活かした取り組みを行っている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は、2カ月に1回併設事業所と合同で実施している。主に行事の報告や利用状況、外部評価の報告を行うと共に、意見や提案事項についてはサービス向上に活かしている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 年4回あいかわ地域福祉センター内の事業所の管理者が各事業所に出された苦情を持ちよって「苦情処理対策打ち合わせ会議」を開催し、各事業所のサービスに活かしている。今年度は、この会議で地区の第三者委員と意見交換の場を設け、今後は施設を訪問し利用者の話を聞いたり、行事に参加し状況を見ていただくなどの前向きな働きかけをしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の自治会に加入し、地域行事やイベントに参加している他、自治会を通して施設行事(救急救命講習会・敬老会・事業所一周年記念行事など)への参加を呼びかけたり、週1日地域の団体による調理ボランティア、年間を通しての地元高校生(介護学科)のボランティアを受け入れるなど、地域住民との交流に積極的に取り組み、地域におけるホームの基盤強化に努めている。

## 2 . 評 価 報 告 書

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>1.理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	スタッフ一同が地域密着型サービスとしての役割を踏まえ、独自に理念をつくりあげている。事業所オープンから2年目が経過したが、現在も初心を忘れず理念を大事にしている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の目につきやすい場所に理念を掲げ、日々の生活支援や行事企画など、職員が果たすべき役割を常に意識し、実践するよう心掛けている。		
<b>2.地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会に加入し、行事やイベントに参加している他、自治会を通して事業所の行事（救急救命講習会・敬老会・事業所1周年記念行事等）への参加を呼びかけている。また、週1回の地域団体による調理ボランティアや、年間を通じて地元高校生(介護学科)のボランティアを受け入れるなど、地域との交流に積極的に取り組み、地域におけるホームの基盤強化に努めている。		
<b>3.理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年度の指摘事項に関しては、全職員が理解し改善に取り組んでいる。また、今年度は全職員が個々に自己評価を行った上で、職員会議で改善策を検討し、行事の企画に活かす等具体的な形で改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は2ヵ月に1回、併設の事業所と合同で実施している。行事の報告や利用状況、外部評価の報告を行うと共に、出された意見や提案事項についてはサービスの向上に活かしている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>生活保護受給等も含め、市町村の担当者に利用者の状況を伝えたり、各種相談や入退院の報告をするなど、日常的に連携をとりながらサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
<b>4.理念を实践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時に細かな状況を報告する他、健康状態に変化のある場合は都度電話で報告している。又、定期的に日常生活の状況や利用者個々の表情を写真に収め、カラープリントして送っている他、預かり金規程に基づいて(全面管理している方7名)金銭管理確認表に出納記録と領収書を添付して送っている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>相談窓口や事業所以外の問合せ先があることをホーム内に掲示し、気軽に話してもらえよう働きかけている。年4回、あいかわ地域福祉センター内の事業所の管理者が「苦情処理対策打ち合わせ会議」を開催し、苦情等について検討することでサービス向上に活かしている。今年度は、この会議で地区の第三者委員と意見交換の場を設け、今後は施設を訪問し利用者の話を聞いたり、行事に参加し状況を見ていただくなどの前向きな働きかけをしている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>併設の小規模多機能型居宅介護事業所の職員と、お互いの仕事の理解と利用者との関係作りのため毎月1名ずつ交換研修を実施している。終了後は職員に気づきや感想を提出してもらい、今後に活かすという取り組みを行っている。</p>		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5.人材の育成と支援</b>					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修の案内がある時は、随時必要な研修を交代で受けている。その他、職員の希望により法人内の他部署における研修も可能であるなど、働きながら学べる機会を設け、職員の育成に努めている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>3カ所の法人内グループホームの職員合同研修や、看護師部会を継続して行っているほか、今年度からは法人内で職場交換研修を行うなど、サービスの質の向上に励んでいる。</p>		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>ホームを見学してもらったり、併設の小規模多機能型居宅介護の利用を経るなどして、徐々に馴染んでから利用を開始している。</p>		
<b>2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>本が好きな方には一緒に購入に出かけ、後日本の内容や感想を聞かせてもらう場面を設けたり、俳句好きな方には自作の句を色紙に書いてもらい、ホームの目に付く場所に貼って皆でその想いを感じ取るなど、様々な場面で学んだり喜びを分かち合う機会を設けている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1.一人ひとりの把握</b>					
14	33	思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の「個人史」を設け、これまで歩んできた生活の状況や人柄、希望などを本人や家族から聴き取って細かに記録し、利用者個々の思いや希望の把握に努めている。		
<b>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者個々の状況を、日勤者や夜勤者がそれぞれ記録し、日々の変化や気づきを毎日の申し送りでも周知している。また、月1回の職員会議とともにケースカンファレンスを行い、本人や家族からの意見等を反映させての介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	昨年の指摘事項に関して全職員が理解し、介護計画に沿った支援の記録の作成に取り組んでいる。このことにより、支援の一連の流れが分かりやすくなっている。介護計画については、状態の変化に応じた見直しも随時行っている。		
<b>3.多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	看護師2名を配置しており、重度化した方の入院回避につなげたり、地域巡回訪問（健康相談）に同行して、グループホームの紹介などを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望する入居前からのかかりつけ医に、看護師が主に付き添って受診している。緊急時にはかかりつけ医に連絡を取り、指示を仰いでいる。受診の結果について、変化があった時は家族に電話で報告している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、利用者が重度化した場合の対応に係る指針を説明し、同意を得ている。又、終末期処置等の希望についても同意を得ている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1.その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は採用時に個人情報保護についての説明を受け、事業所と誓約書を交わしている。又、職員は職員会議において言葉かけや対応について確認しているほか、年1回の自己評価を元にセンター所長と個人面談し、指導を受けている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせ、思いに沿って過ごしている。希望があれば理美容院利用やドライブ、買物や外食なども通院に合わせて支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者から好きなメニューや味付け、量の希望など細部にわたってアンケートをとることで、食事に対する関心と意欲を引き出し、おいしい食事が提供できる工夫をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しめるように支援している	併設の事業所と同じ浴室を使う事から、入浴時間は事業所間で調整しているが、本人の健康状態に配慮しながら一人ひとりくつろいだ入浴が出来るよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの有する力や習慣の楽しみごと（食後の後片付け、洗濯物たたみなどの好みの家事や、お花や畑作りなど）を把握し、個々の活動に活かせるよう支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買物、ドライブ、散歩、花見、月1回の外食など、一人ひとりの希望に添った外出支援を行っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	常時職員が見守りをして、日中は玄関に鍵をかけていない。徘徊のある利用者には安全に配慮し、職員が声かけをしながら一緒に行動している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>ホームの向かいにある消防署の協力を得て、年2回併設事業所と合同での避難訓練を実施している。夜間想定訓練も行っている。ホームは小高い丘の上に位置し、地域福祉センターや消防署等、公共の施設が立地する区域ということもあり、今の所地域住民の協力体制を築くまでには至っていない。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>毎食時の残量や水分摂取量を記録し、個々の摂取状況の把握に努めている。職員は高齢者向けの食事に関する研修に参加し、学んだ事を支援場面に活かしている。年1回は地域の栄養士に献立を見ていただいているが、今年度は法人内の交換研修に栄養士も参加し、実際の食事を見ての指導を受けている。</p>		<p>年間を通して調理のボランティアも入っている事から、法人内の栄養士に栄養のバランスや摂取量など、専門的なチェックと指導を定期的に受けていく事が期待される。</p>
<b>2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ホームの天井は採光に工夫して高く造られている。トイレは車椅子の利用や介助のための十分なスペースが確保され、ゆったりとした空間造りがなされている。リビングとロビーの両方に畳敷きコーナーやソファ、テレビを設置し、利用者が思い思いに過ごせる場所を確保している。家庭的な環境に配慮しつつ、明るく掃除の行き届いた心地よい空間となっている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には名札はなく、ドアの窓に工夫が施され識別できるようになっている。ベッド以外は馴染みのものが自由に持ち込まれ、入居時に家族と共に家具や身の回り品の配置を行っている。居室の壁には家族の写真や季節の鉢花を置くなど、安心して居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>		

は、重点項目。